

# 水都大阪の新名所・ 八軒家浜港開港!!

水都再生の拠点として大阪府が整備を進めてきた八軒家浜(大阪市中央区)で、1期区間(天満橋下流200m)の船着場や遊歩道が完成。3月28日に前夜祭、同29日に開港式と毎春恒例の川開き式典が行われた。



八軒家浜は、熊野街道の起点として、また淀川舟運の中心地として古い歴史をもち、『東海道中膝栗毛』や浪曲『石松三十石船道中』、落語『三十石夢の通り路』にも登場する。

江戸時代、当地に8軒の船宿があったことから八軒家浜と呼ばれるようになった。

開港式は平松邦夫大阪市長や橋下徹大阪府知事のほか、建築家の安藤忠雄氏や経済界、地元町会の代表らが参加して行われた。桜の記念植樹に続いてテープカットが行われ、新栈橋の誕生を祝った。引続き、大川の川開き式典に移り、着岸した船の上から平松市長が川開きを宣言。大阪市消防局による祝賀放水やジェットスキーによるデモンストレーション、水上パレードが行われ、式典を盛り上げた。

また大阪21世紀協会は、開港を記念して水辺の賑わいを創出する新たなプロジェクトとして、『八軒家浜～春まつり～(3月28日～4月13日)』を開催。完成した栈橋に、桜をモチーフにしたイルミネーションや水上カフェを設置したほか、期間中の土・日には特設ステージでジャズやポップスのライブ演奏も行うなど、花見時期の大川に彩りを添えた。



ライトアップされた八軒家浜栈橋(3月28日撮影)

八軒家浜栈橋は、長さ約35メートル、幅約6～11メートルの浮き栈橋を3つ連結した構造で、波による揺れを最小限に抑える最新技術が導入されている。この整備にあわせて京阪天満橋駅と八軒家浜を結ぶエントランスも設けられ、駅改札口と水辺の遊歩道が直結。大川や対岸の南天満公園の緑が楽しめるカフェなども設置され、今後一層の賑わいと集客が期待されている。



八軒家浜栈橋から対岸の南天満公園を望む

対岸の水上栈敷席では、大阪名物・道頓堀今井の「きつねうどん」などが楽しめた



春の舟運まつり  
(3月29日～4月15日)



八軒家浜栈橋と遊歩道(3月29日)